



寄贈図書等の紹介

佐藤 正 陸自78

角田燎著 『陸軍将校たちの戦後史』

つのだりょう角田燎氏は立命館大学に籍をおく新進気鋭の社会学者で、陸軍将校たちの戦後史を主たる研究対象にされています。偕行社には何度も足を運ばれ、私も数回お会いしましたが、研究に対する真摯な態度はもとより、その折り目正しい姿勢にはいつも感心させられました。祖父君が陸軍将校だったというのも肯けます。

角田氏は、軍隊経験者の戦後史の先行研究を調べていく過程で、旧陸軍のエリート軍人たちの戦後史が十分に検討されていなかったことを発見し、それに焦点を当てた戦後史を明らかにしようとして試みたのが本書です。その際、元陸軍将校の集まりで

新曜社 定価2900円＋税

ある『偕行』を多角的な視点で分析し、彼らの戦後史と戦争観の変容等を明らかにするとともに、偕行社の歴史と変化についても論じています。

ある偕行社に着目し、その機関誌である『偕行』を多角的な視点で分析し、彼らの戦後史と戦争観の変容等を明らかにするとともに、偕行社の歴史と変化についても論じています。

本書の巻末には約50ページに及ぶ脚注がありますが、『偕行』からの引用・参照が数多くあり、これほど『偕行』を読破された方は他にいないのではないかと驚嘆しています。

本書の目次は左のとおりです。偕行社にご関心のある方には、是非手序章 陸軍将校の戦後史を紐解く意義

第1章 偕行社の再結成
第2章 会の大規模化と靖国神社国家護持運動

第3章 「歴史修正主義」への接近と戦後派世代の参加

第4章 同窓会から政治団体へ
終章 「陸軍将校の反省」の可能性と限界



本書を読んで感激したのは、とにかく数多くの元自衛官が登場するので、在職中に一緒に勤務したり、お世話になった先輩や同僚の方々と出会うことができたことです。

体力抜群だったあの先輩が、意外な能力を持っていたこと、『偕行』川柳教室の常連投稿者が、再就職した企業で大活躍されていたこと、尊敬する上司がくも膜下出血で倒れたことなどを知り、胸が熱くなるのを感じながら読み進めました。しかも、松田さんの文章はリズムカルで、テンポも速く、読みだしたら止まらない魅力があります。

著者は「おわりに」で、取材を通じて、「元自衛官であること」への誇りを感じている人が多かったと述べています。本書を読むことで、自分の人生を振り返るきっかけにもなるのではないかと思います。

「就職活動は一番力のある者ではなく、一番準備した者が勝つ」と言われます。これから再就職を控えている現職自衛官には、ぜひ本書を手に取り、諸先輩の実例を参考にしながら、第二の人生の準備をしてほしいと思います。

本書は待望の2冊目で、自衛官なら誰もが経験する定年退職後の再就職について、いろいろな業種に再就職した数多くの退職自衛官に精力的に取材を行い、再就職先の職場や仕事の現実など、経験者でなければ語れない生の声を届けています。成功者の事例だけではなく、再就職の厳しい現実についてもしっかりと調べ上げています。



1000円＋税

杉山徹宗著『日本の大逆襲 経済、防衛の超大国へ』

久し振りに、爽やかな気持ちになり、元気がよみがえる本に出会いました。

この30年、日本経済は停滞し続けています。一方、欧米は、GDPが年平均2%程度の上昇が続き、その結果、日本は他の先進国と比較し、相対的に貧しくなりました。台湾や韓国の一人当たりのGDPも日本に近付いています。少子高齢化が進む中で、日本の将来を思うと暗たんたる気持ちになります。

そんな折、杉山徹宗先生から『日本の大逆襲』の寄贈がありました。本書の主題は、技術力を持つ日本が、世界が求めるモノを開発・生産・輸出すれば、日本経済は30年前の元

気を取り戻すというものです。その技術とは、「光子量子コンピュータ技術、完全自動翻訳技術、アンモニア発電技術、液体水素燃料の各種エンジン適用技術、巨大宇宙船帰還技術、各種ロボット技術、レーザ技術」等々です。しかもこれらの技術は、現時点で日本が世界より先行し

